

# 目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[SPAN リフレクタ](#)

[スイッチ バックプレーンの FWSM トラフィック キャプチャ](#)

[ステップ 1: FWSM によって使用されるポート チャンネルを判別して下さい](#)

[ステップ 2: 送信元および宛先 インターフェイスを定義して下さい](#)

[ステップ 3: モニタ セッションを確認して下さい](#)

[関連情報](#)

## 概要

この資料に送信され、Firewall Services Module ( FWSM ) から受信されるトラフィックをモニタする方法を記述されています。Cisco Catalyst 6500/Cisco 7600 シリーズ ルータ プラットフォームで、他の物理的セキュリティ デバイスにキャプチャまたは伝達のようなアクティビティのための宛先ポートにトラフィックをリダイレクトするのに使用できる 2 スイッチ型ポートアナライザ ( SPAN ) セッションがあります ( Intrusion detection system のような )。SPAN セッションは別名モニタ セッションです。

## 前提条件

### 要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- ネットワーク セキュリティ
- データ収集 ( スニファア ) との習熟度

### 使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づくものです。

- Cisco Catalyst 6500/7600 シリーズ スイッチ
- Cisco Catalyst 6500/Cisco 7600 シリーズ Supervisor Engine 720
- Cisco FWSM

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな ( デフォルト ) 設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく

必要があります。

## 表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコテクニカルティップスの表記法](#)』を参照してください。

## SPAN リフレクタ

いくつかのサービスモジュールは、FWSM のようなすべてのサービスモジュールのためにスーパーバイザの ASIC と通信するために、2 人のモニタ セッションの 1 人を利用します。このコミュニケーションパスは FWSM またはその他のサービス モジュールを egressing とき中央リライト エンジンが必要とする切り替えられるべき他のトラフィック、またマルチキャストトラフィックを、有効にします。セッションのこの型は SPAN リフレクタとして知られ、デフォルトで有効になります。スイッチ使用が ( クロス モジュール ) EtherChannel を配った場合 SPAN リフレクタが必要となります; ポート チャンネルが組み込まれるおよびクロス複数のラインカード マルチプル インターフェイスを備えている時存在 する分散 EtherChannel。

**注** その他のサービス モジュールがそれを必要としない場合適応性があるセキュリティ アプライアンス モデル サービスモジュール ( ASA-SM ) は SPAN リフレクタ、従ってあなたをリフレクタをディセーブルにすることができません必要としません。

第 2 セッションはパケット 探知のような他のモニタ セッションに、使用することができます。

モニタ セッションのステータスを見るために `show monitor セッション` をすべてのコマンド利用して下さい; 型としてサービスモジュール セッションを探して下さい。

## スイッチ バックプレーンの FWSM トラフィック キャプチャ

トラフィックに及ぶために送信され、内部 バックプレーン インターフェイスの FWSM から届くモニタ セッションを利用して下さい。この例では FWSM に出入してトラフィックをスニッフィングするために、セッション 1 は設定されます。

### ステップ 1: FWSM によって使用されるポート チャンネルを判別して下さい

FWSM は一般に 270 またはより高い番号が付いている内部ポート チャンネル番号を使用します。どのポートが使用中であるか判別するために `show etherchannel summary` コマンドを使用して下さい。

この例では、ポート チャンネル ID 272 はスロット 3 の FWSM に割り当てられます。FWSM は内部 EtherChannel に組み込まれる 6 つの 1 GB ポートによってスイッチにバックプレーンを接続します。

### ステップ 2: 送信元および宛先 インターフェイスを定義して下さい

モニタ セッションのための送信元および宛先 インターフェイスを定義するためにモニタ セッシ

ョン 1 つのソースインターフェイスおよびモニタ セッション 1 デステイネーションインターフェイス コマンドを使用して下さい。この例では、ソースインターフェイスは物理的な スニフアー デバイスが接続されるところにポート チャネル 272 です ( ステップ、およびデステイネーション インターフェイスで 1 ) 識別されるようにポートギガビット 5/48 は。

### 手順 3 : モニタ セッションを確認して下さい

モニタ セッションを確認するために `show monitor セッション 1` コマンドを使用して下さい。

出力はことに送信され、スロット 3 の FWSM から受信されたすべてのトラフィックをモニタすることをポート チャネル 272 ( Po272 ) がスパンの始点、そしてである示したものです。

注 6 ポートに 1 GB EtherChannel 及び場合、デステイネーションインターフェイスのパケットレート ( カスニフアー 入力速度を ) 超過することができます。1 GB イーサネットインターフェイス ( 宛先ポート Gi5/48 の送信する 比率 ) で物理的に 可能性のあるがであるより FWSM ポート チャネルにより多くのトラフィックがあれば、デステイネーションインターフェイスはスニフアーにパケットすべてを出力できないかもしれません。

## 関連情報

- [Catalyst 6500 リリース 12.2SXF および改造ソフトウェア コンフィギュレーション ガイド: ローカルSPAN、リモート SPAN \( RSPAN \) およびカプセル化された RSPAN](#)
- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)